光明寺だより

第98号
浄土真宗本願寺派
光明寺

〒793-0030　西条市大町550
TEL 0897-53-4583

心に残る詩

正解とは

さいたま市　滝沢有咲

りんごを見て
君は赤いと言った
僕は丸いと言った
空を見て
君は青いと言った
僕は広いと言った
雲を見て
君は白いと言った
僕は綺麗と言った
捉え方は違うけれど
間違いは一つもない
これは人生も同じ
「正解は一つ」と
決めないで

産経新聞「朝の詩」より

新盆合同追悼法要

8月13日・14日

★開始時間（両日とも）

第１回目　午後６時３０分
第２回目　午後８時

一口法話

仏さまは不公平？

田代俊孝先生（同朋大学教授・仁愛大学学長・大谷派住職）の著書『悲しみからの仏教入門』の中に次のような話が掲載されていました。

名古屋市に住む女性から、「ボケの母親を抱える悲惨」という新聞記事が同封された、次のような手紙が届いたそうです。

……最近、仏さまは不公平じゃないかと考える時があります。同封の新聞記事のような人や何十年も難病に苦しめられる人がいると思えば、一生健康で何事もなく、死ぬ時も楽に死んでいく人も沢山あります。仏さまは不公平じゃないですか。私には分からないので教えて下さい……

面識のない女性で、詳しい状況も述べられていないため、返事に困ったそうですが、恐らく本人か家族の誰かが病の苦しみに直面されて、このような手紙を出されたのではないかと推察され、次のような返事を書かれています。

・・・

私たちの苦というのはすべて妄想や分別、とらわれによるものです。

たとえば、お金に苦しめられると言いますが、お金そのものに苦しめられるのではありません。お金に対する自分のとらわれに苦しめられるのです。

仏さまは私たちの都合に従って欲望を満たすものではありません。逆にそういう都合の世界、我執に気づかせてくれるものが仏さまなのです。

他と比較して損だ得、不公平だとかいうのはまさにとらわれです。

本当の満足は自分の都合というモノサシの上に登ることではありません。そのとらわれを離れた時、初めて訪れるものです。

お尋ねの手紙の問いのお応えになったかどうか分かりませんが、一応今の私は仏教に学んで、このように頷（うなず）いております。

・・・

春の『彼岸会法座』

３月 23 日（金）午後２時より、小林顯英先生をお招きして春の彼岸会法座を開催いたしました。
20 名の参拝がありました。
おはなしは次のような内容でした。
【講演主旨】ある時、本山の参拝者から、キリスト教の神さんと仏さんはどこが違うのかと聞かれたことがあります。
そこで私は、キリスト教のことは詳しくないがと断わって、「キリスト教の神さまは天国と地獄を作られたけれども、少なくとも阿弥陀さまは極楽は作られたが、地獄は作ってない。そこが仏と神の違いじゃないですか」と話しました。
地獄は誰が作るのかといえば、仏教の教えによれば、“火の車　作る大工はなけれども　己が作りて　己が乗り行く”　という歌があるように、地獄はこの私が作っていくものです。そうして、この地獄を含め餓鬼、畜生が迷いの世界で、これを三悪道（三悪趣）と言います。すべてこの私が作っていく世界です。
三悪道を少し細かく見ていきますと、「畜生」は言葉の通じない世界です。つまり強い者勝ちの世界です。理屈で負かされそうになると、すぐに「黙れ、うるさい。ワシの言うことを聞け」と、力づくで相手を抑え込もうとします。言葉が通じません。これが畜生の世界です。他の人のことではありません思い当たることが自身の内にあると思います。
「餓鬼」とは欲求不満の世界です。“渇して塩水を飲むがごとし”と言われるように我々の欲には際限がありません。いくら欲を貪（むさぼ）ってもさらに欲が出てくる。そうやって決して尽きることのない欲望に振り回されて不平不満を膨（ふく）らましていく。これが餓鬼の世界です。モノの乏しかった頃に比べ今はモノに恵まれた社会ですが、逆に私たちの欲はさらに膨らんでいると思います。これまた思い当たることがあろうかと思います。
「地獄」とは、源信僧都の言葉を借りれば「我、今帰るところなくして、孤独にして同伴なし」という世界です。つまり、居場所もなければ帰るところもない、一人ぼっちで誰一人寄り添う者もない、まさに孤独の世界、これが地獄の世界です。
この三悪道（地獄・餓鬼・畜生）は、他でもない今現にこの私が作っており、私がさまよっている世界です。
阿弥陀さまは、三悪道をさまよっている浅ましい私の姿をすでに見抜かれて（仏かねてしろしめして）、「決して一人にはしないぞ、お前の帰るところはここ（極楽浄土）だよ、安心して帰ってこいよ」と、私のいのちが安心して帰って行ける世界（極楽浄土）を作られ、南無阿弥陀仏の呼び声となって今、私にはたらきかけて下さっているのです。
代わってくれる者のない人生をただ一人で歩む私にとって、いかなる時でも私に寄り添い、そのままのあなたでいいですよ、必ず救うから安心して下さいと私を支え続けて下さる阿弥陀さまの大悲心に気づかせてもらう時、深い安心感に包まれた人生が開かれてくるのです。

浄土真宗のしきたり

お仏壇のお荘厳（お飾り）について

新しいご門徒さんが増えてきましたので、お仏壇のお荘厳（お飾り）の基本的なことを説明いたします。

なお、仏壇を新しく迎えられた時は「入仏法要」という仏事を行ないます。「お魂入れ」・「開眼供養」とは言いませんのでご注意下さい。

【上段】

左図の三幅を掛けます。

お掛け軸は本山より頂くようにしましょう。

親鸞聖人

阿弥陀如来

蓮如上人

夫々の前に「お仏飯」をお供えします。

華瓶があれば本尊の前に一対置きます。

華瓶には樒を飾ります。

お仏飯

華瓶

水・お茶、お霊供膳はしません。

水・お茶

お霊供膳

【中段】

下図の通り花瓶一対・ローソク立一対香炉一個を置きます。（法要時）

平常時は花瓶・ローソク立・香炉・各一つにします。

花瓶には生花を活けて下さい。

開いたスペースに過去帳を置いて下さい。

過去帳

お位牌

【下段】

お供え物を置きます。

法事の時は、お餅・お菓子・果物を各々一対します。

法要時（五具足）

平常時（三具足）

〈注意〉

お仏壇の大きさによって、説明通りに置けない場合がありますが、その時は中段と下段は臨機応変に置き換えて下さい。

なお、次のような物はお仏壇に入れませんのでご注意下さい。

お札、他宗の仏様（十三仏、大日如来、観音さんなど）、故人の写真

趣味の広場

俳句を楽しむ（七十七）

森本隆を

ただ今は梅雨期のまっ只中です。田植えも終わり、恵みの雨を得て夏野菜が一気に成長する頃ですが、気圧の変動や天候不順のころでもあり人間の体にはけっこうこたえる時期です。皆様にはこれから暑くなる一方の日々に備えお体に充分気をつけてお過ごし下さい。さて、前々回からいよいよ閉じんとする平成の時代の俳句作品を大まかに振り返っていますが、今回は春と夏の二つの季節にわたって佳句を拾い上げたいと思います。まず春の句。

春や子に欲し青雲のこころざし　加古宗也

春の雪空の静けさ降るやうに　成田千空

長い冬を耐えてやっと迎えた春という季節は、人間も含めて大自然界が活動し始める時ですね。早春の頃、我が子の成長を感じ同時に期待や不安が頭をよぎる気分を詠んだ一句め、そして春とは言え遅い雪が降ったりするとあの暗く寒かった冬の日の静けさをふと思い出した二句め。微妙な季節感だと思います。

橋渡りつつ春風の人となる　倉田　紘文

歳月を霞に入れて憩ふなり　村越　化石

心から春を喜こび季節に浸り切った句です。

蓋開けて電気直列春寒し　奥坂　まや

逆吊りに自転車売らる燕来て　能村　研三

さくらさくら大吟醸の効いて来し　本宮　哲郎

日常生活の中での一瞬をとらえて詠んだ句が前の二句です。リモコンスイッチを扱いながら感じた春の寒さ、通りかかった自転車店の軒先の巣に出入りする燕、がそれぞれ印象的です。最後の句は、花に酔い春満喫の心をそのまま詠んだ、天国ような句でした。

次に夏の句。

いち早く教会灯る立夏かな　角川　春樹

涼しさのいづこに坐りても一人　藺草慶子

暦のお約束通りの夏という季節に対しての挨拶のような句ですね。両句とも夏が来ましたねと読者に語りかけてくるようです。

籐椅子に寝て人生を折り返す　高橋　悦男

子供の日小癪な自動改札機　辻田　克己

緑蔭は人に譲りて帰りけり　山田みづえ

私達は毎日をほとんど何気なく生きていることが多いのですが、細かく考えればけっこう色々感じながら生活していて、俳人はそんな一瞬を見逃さず句に詠むのですね。籐椅子にボーッと寝ているようで頭の中では過ぎ来し人生を振り返る時間があったり、自動改札機が切符を確認して人を通す瞬間にふと感じた気持ちが句の材料になるのですね。三句めは特に女性らしさを感じさせる句です。

人声の親しき夜の網戸かな　深見けん二

同じこと問ふ母南瓜花盛り　阪田　昭風

それぞれの句の季語は「網戸」と「南瓜の花」で、ありふれた、身近なものです。しかし両句ともしみじみと感じた心情を表現した句で、とても上手な俳句だと思いました。どんな心情をこの句に託しているか、これを読者の方で読み取るという俳句の楽しさです。

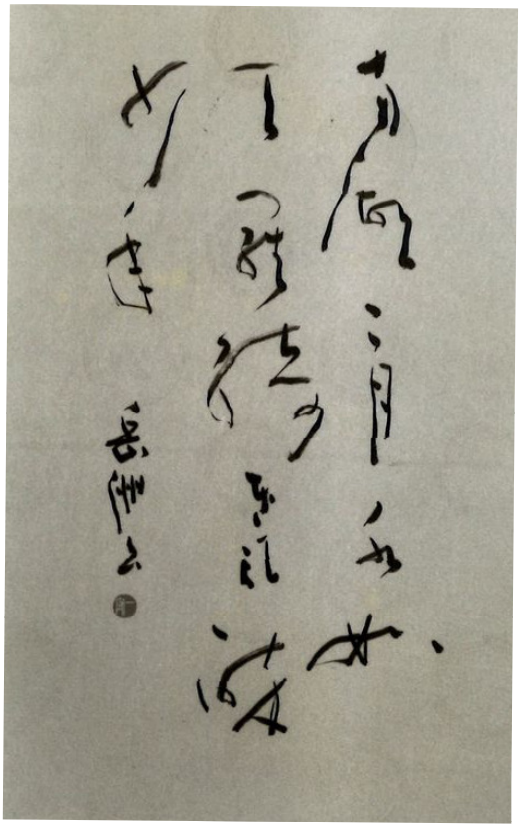
妹に買ひし紬や蛍の夜　橋木　榮二

金閣にほろびのひかり苔の花　遠藤若狭男

最後の二句は夏という開放的かつ活動的な季節の俳句にしては珍しくとても感覚的な作品です。「妹に買ってあげた紬」を「蛍の飛ぶ夜」の情緒でまとめた一句め。「金閣の庭の苔の花」に「ほろびのひかり」を感じたと詠みとめた二句め。正解は作者にした言えないことを、「この句は何を、どんな気分を表しているのか」とよく考えてみるのも俳句の面白さでしょうか。

又、今年も暑い夏だと気象予報士は言います。どうかご自愛の上、猛暑を乗り切りましょう。

住職書作品



字句　南湖二月水如天
　　羅綺東風酔少年

語釈　二月の南湖は波が静かで空と連なっているようである
　　酔った貴公子の着物が春風に吹かれている

BOOK　本

発行所　法蔵館
著　者　田代俊孝
定　価　１４５６円（税別）

著者は大谷派住職であり、仁愛大学学長、同朋大学教授を併任され、さらにはビハーラ医療団の代表も務めておられ、デス・エデュケーション（いのちの教育）やビハーラ（仏教ホスピス）などの分野の理論的リーダーであり第一人者です。

本書は二部構成で、一部は新聞に掲載されたものを系統的に編集したもの、二部はガンのため41歳でその障害を閉じられた平野恵子さん（本願寺寺院の坊守）の手記を紹介しながら著者自身のいのちの学びが綴られています。

序文に次のような著者のメッセージがあります。

死そして生を考える

死を見つめることは生をより充実させることです
自らの人生を充実させるためにも、
さらに死に直面している人に共感し、
共に死の苦しみを越えていくためにも、
死そして生を考えようではありませんか。

秋の彼岸会法座

９月２８日（木）

おつとめ　１３時３０分
おはなし　１４時

【講師】　備後教区・法光寺住職
季平博昭先生

光明寺のホームページ

南岳山光明寺　検索

言葉のプレゼント

努力すれば報われる？
そうじゃないだろう
報われるまで努力するんだよ
メッシ（サッカー選手）

「光明寺だより」をご家族の皆さんでお読みください

★次回発行予定…12月上旬

話題

★7月発売予定の雑誌「カーサブルータス」（マガジンハウス発行）に光明寺のことが掲載されます。

★7月下旬、住職夫妻に第3子（男児）が誕生する予定です。無事生まれてくることを願うばかりです。

★3月23日（金）小林顯英先生をお迎えして春の彼岸会法座を開催いたしました20名の参拝者がありました。

（＊関連記事4ページ）

★日本チームが出場したサッカーワールドカップは惜しくも初のベスト8を逃し残念でした。しかし毎試合後、観客席の清掃を続けたサポーターや、ロッカールームに、ロシア語で「ありがとう」と書いたメッセージを残し、きれいに後片付けして去っていった日本チームに対し国際社会では称賛の輪が広がっています。日本人の勤勉さやマナーのよさが高く評価されたことに同じ日本人としてまことに誇らしく思います。